

まちのわだい

本に親しむきっかけに「本のリサイクル」

6/28 [Sun]



▲中央公民館のロビーに集まった来場者

多久市立図書館で、利用後に除籍された資料や市民のみなさんから寄贈いただいた資料など、約4,000冊の本を無償で持ち帰ることができる「本のリサイクル」を中央公民館で開催しました。

当日は、166人が来場され、会場には雑誌や小説、児童書、実用書などが豊富に並び、来場者は手に取りながら、お気に入りの本を探していました。

市立図書館の辻成美館長は「家で過ごす時間が増えた今だからこそ、本をより身近に感じてもらいたい。年に1度はこうしたイベントを開き、図書館内の本を入れ替えることで、新しい本を随時追加していけたら」と笑顔で話しました。

年に1度の旬の味「青しまうり漬」の販売開始！

7/1 [Wed]

多久の伝統野菜、青しまうりを使った「青しまうり漬」の販売が今年も始まりました。例年は、JAさが農産物直売所「たくさん館」で発送開始式を行っていますが、今年は新型コロナウイルスの影響のため、多久野菜うり部会の北島一明会長らが市役所で、横尾俊彦市長に販売開始の報告を行いました。

北島部会長は「部会一丸となって一生懸命、生産に励んでいる。カリッとした歯ごたえが特徴的な青しまうり漬けを、ぜひ味わってほしい」と話されました。

市内では、たくさん館と朋来庵で販売されています。自然豊かな多久で育まれた夏の恵みをぜひご賞味ください。



▲「青しまうり漬」を手に微笑むJAさが佐城多久地区代表理事の牟田和弘さん(左)、北島部会長(右)、横尾市長(中央)

▲旬の特産品「青しまうり漬」

西多久町の伝統野菜 女山大根が地域団体商標に登録

7/3 [Fri]



▲市役所で登録の報告を行った蒲原会長(左から3人目)、松山真由美副会長(左から1人目)、諸江啓二事務局(左から4人目)と横尾市長(左から2人目)

西多久町に江戸時代から伝わる伝統野菜「女山大根」が、地域団体商標に登録されたことを受け、女山大根の地域ブランド確立を目指す幡船の里協議会が、横尾俊彦市長に登録の報告をされました。

地域団体商標制度は、地域ブランドの保護や地域経済の活性化を目的に、2006年4月から特許庁が導入したもので、佐賀県では佐賀のりや小城羊羹などにつき8例目です。

幡船の里協議会の蒲原政信会長は「今後も品質向上や生産性の向上を図り、若手生産者の育成や参入にも力を入れていきたい」と今後の展望を話されました。